

SRID NEWSLETTER

No. 335 OCTOBER 2003 国際開発研究者協会 創設者大来佐武郎
〒102 -0074 東京都千代田区九段南 1-6-17 千代田会館 5 階 FASID 内

10月号

主体的参加型手法 (PRA) と子供にも可能なシステム・モデリング (SimTaKN)

東洋大学国際地域学部教授 池田誠

ナラヤンプルの村と学校

SRID 婦人クラブ 平間 保枝

お知らせ

1. 会員異動 高津 俊司 さん

独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構

2. 幹事会 11月14日(金) 午後6時30分から

主体的参加型手法 (PRA) と子供にも可能なシステム・モデリング (SimTaKN)

東洋大学国際地域学部教授 池田誠

この NL で PRA に関して解説することは私の役割を超えていますが、ちょうど (財) 国際開発高等教育機構 (FASID) で開催される「ODA 評価者のための評価ワークショップ」の中に「参加型評価における PRA 手法の活用 (実践編)」が含まれており、私の専門のシステム・モデリングと最新ソフト SimTaKN の観点から PRA との関連について簡潔に述べさせて頂こうと思います。SimTaKN は、10月11日に Vector から販売開始になったばかりです。

システム・モデリングとは、ダイナミック・モデリングに相当するシステム・ダイナミックス SD (System Dynamics) とその前段としての思考法としてのシステム・シンキング ST (System Thinking) から構成されています。SD は 1950 年代から J.W.フォレスト

一が提唱し、「成長の限界」の世界モデル、都市モデル、企業モデル等が有名です。STとSDを一言で説明するとすれば、「様々なシステムに関するダイナミックな動き（時系列と因果関係）に焦点を当てて問題解決と意思決定を行う論理的な思考技術（ST）とコンピュータによるシミュレーション手法(SD)」です。このSTとSDの中に1990年代から参加型の手法が登場し、チーム学習や組織学習、システム思考(ST/SD)によるグループ・モデリングという形でPRAのツールの一つになる可能性が生まれつつあるように思っています。

PRA (Participatory Reflection and Action) とは、チェンバースによれば「参加者一人一人による自己批判的な省察と行動」です。1991年2月の時点では、①行動様式・態度：指示棒を手渡す、人々にはできる、常にあなたの最善の判断に従いなさい、座って、耳をすまして、学んで、敬う、忘れる、間違いを恐れない、②手法：インタビュー、地図を描く、模型を作る、順位を付ける、点数を付ける、分析する、図表を描く、発表する、計画を立てる、ことが中心でした。1996年3月までに③に共有を含めて加えられた点は、①行動様式・態度：ファシリテートする、急がない、人々に尋ねる、楽しむ、人々にやさしく、②手法：観察する、リストを作る、比べる（計測から比較へ）、教える、見積もる、行動する、監督する、評価する、言葉から視覚へ、個人からグループへ、③共有：人々はお互いにまた私たちと知識や分析を共有する、全ての人々は生活や食事をともに経験する、組織や訓練者は、訓練キャンプや経験を他のNGO、政府、大学、ドナーなどと共有する、パートナーシップなどが加えられました。

ちょうど同じ頃、STとSDにおいては、1990年にP.M.センゲが提案したラーニング・オーガニゼーション（学習する組織）への変革で、システム思考、自己マスタリー、メンタルモデルの克服、共有ビジョン、チーム学習、ラーニングラボ（実験室）が目ざされ、経営の分野では大きなインパクトを与えました。1997年にV.アンダーソンとL.ジョンソンが、システム思考ツールとして①ダイナミック思考ツール（時系列変化図、因果ループ図、システム原型）、②構造的思考ツール（関数グラフ、構造動きペア、方針構造図）、③コンピュータソフトウェアツール（コンピュータモデル、マネジメントフライトシミュレーター、ラーニング・ラボラトリー（実験室））などが加わりました。PRAとの統合については池田が大学や地域で実験中です。

このようなSTとSDの発展を受けて中村州男氏が「問題解決と意思決定の総合支援ソフト： SimTaKN（愛称：シムタクン）」を開発しました（池田も協力）。価格は3,000円です。これは、小学校高学年くらいから使える程度の簡単な操作でSTとSDによるシミュレーションが連続的に可能なダイナミック思考ツールとしてのシミュレータ・ソフトです。SimTaKNで、次のようなことが可能になります。①問題の構造を明らかにする因

因果ループ図（CLD）の作成、時系列変化図（BOT）の作成を行いながらシステム思考を簡単な操作で実現するためのメモ帳です。②特に、統計や数値データのない問題が重要になっている今日、感性や動機、信用なども数値データなどと一緒に扱うことが可能です。③因果ループ図が、そのままに近い形で、システム・ダイナミックスのモデリングとシミュレーションにつながって、数値の変化によるシミュレーションだけではなく、構造変化や新しいプロセスの発見、レバレッジの探索等を試すことができます。④個人やチーム、グループで、システム・モデリングを存分に実感してください。⑤作成途上の因果図やモデルから、更には出来上がった因果図やモデルまで、ネットワークで知識の共有化を図る掲示板が充実しています。⑥学校や企業、行政や市民組織などに SimTaKN を導入することでラーニング・ラボ（学習実験室）を持つことが可能になります。⑦複雑化し多様化する現代に対応する学習する組織（ラーニング・オーガニゼーション）に変革する総合支援ツールです。

このように参加型の地域づくりを進める上で、PRA のように地面に絵を描いたり、紙に描くことも状況に応じて大切ですが、パソコンで因果ループを書きながら、次第にダイナミックに動かすことのできるモデリングに移行できるツールは、インターネットでの情報交換などを通じて主体的参加を更に高めるものと考えています。（より詳しい情報をお求めの方は池田の HP：<http://www2.toyo.ac.jp/~mikeda/>へ）

- 参考文献：1. ロバート・チェンバース著、野田直人・白鳥清志監訳「参加型開発と国際協力」明石書店（2000年6月）
2. P.M.セング著、守部信之訳「最強組織の法則」徳間書店（1995年6月、原著1990年発行）
3. V. アンダーソン／L. ジョンソン共著、伊藤武志訳「システム・シンキング：問題解決と意思決定を図解で行う論理的思考技術」日本能率協会マネジメントセンター発行（2001年10月、原著1997）

ナラヤンプルの村と学校

SRID 婦人クラブ 平間 保枝

SRID 婦人会がバングラデシュの首都ダッカから約 30 キロメートル、首都の渋滞を通り抜けて 5 時間の場所にあるナラヤンプル村に関わり始めて 4 年目を迎えました。少々もたもたした経緯の末、村の小学校に教室を提供することができました。その小学校は義務教育下にあるものの、村の有志たちが政府からの補助をなんとか補いながら細々と運営していました。元駐日大使をしておられたハク氏が帰国とともに、この村の教育をなんとかしようとしておられたので、SRID 婦人会はその支援をするという形を取ったのです。この村の有志のリードを取っているのは、ハク氏の親戚筋にあたるホッサン氏です。ハク氏が日本に関わっていた時から支援金を取り付け、ホッサン氏に指令を出して、村の水道管を設置したり、子どもたちに学用品やお金を送ったりしていた経緯があったようです。今回婦人会が提供した資金はその環の流れに乗って、村人たちが協力して労働した結果、教室、書棚、机、椅子、本 200 冊分という実を結んでいます。その他に算数の教材や地図が買い足され、壁や壁に描かれたアルファベットのペンキが塗り直され、外装も小奇麗になっています。さらにハク氏の日本時代からのお知り合いが援助資金として、英語、理科の教師 2 人分の給料を負担してくださっているので、政府が雇用する教師 3 人を合わせて 5 人となり、周囲の村の学校に比して抜群の教育環境が整っています。誰呼ぶともなく「日本村」となり周辺からは希望の場所に思われているらしく、私的教師は 19 倍の倍率を突破して採用されたダッカ大学卒業のエリートで、公務員の教師よりも高い給与が支払われています。このトップ・ダウンの指示のお陰で、この村の小学校教育は開発努力の過程を歩んでいるかのようです。

今年、新たにマイクロ・クレジットのプロジェクトを仕掛けたところです。30 名弱の婦人が一つの共同体となり、リーダーを決めて半年間、毎週勉強会を開き、字や、衛生、社会習慣のことがらを学ぶとともに、10 タカ（20 円くらい）ずつ積み立てます。その間に自分たちで始めるビジネスを検討し、小さな額のお金を無利子（少し利子がつくかもしれない）で借りて、自立していくシステムです。農繁期に 2 週間休会があったものの、メンバーは熱心かつ必死なので、現在自分たちの名前の通帳もでき、保証金となる積み立ての額は合わせて 1 万円くらいに達したそうです。起業とするのは身籠った牛、山羊を買ってミルクを売る、脱穀をするという仕事です。9 月半ば、半年が経ったのでハク氏が融資を兼ねて様子を見に行ったのですが、返済計画がまだ煮詰まっておらず、リーダーの女性にヒントを与えてもう少し考えてもらうことになりました。銀行や NGO が返済の面倒を見ている例があるそうですが、ハク氏はあくまでも自立を旨としているので、時間はよけいにかかっても仕方がないと思っているようです。この女性たちは、「土地、家、夫のない 40 歳代の女性」で、「さくら・モヒラ・ショミティ」と命名されました。「さくら女性会」というような意味です。

問題を多々抱えながらも人や生活が開発されて、教育が充実することを祈っています。